

## 市川市民としてのあり方、前編

まだまだ混迷を極める政治。根強い利権構造。財政赤字等が私たちの生活に重くのしかかります。そして、東日本大震災から3年経ちましたが、被災地復興、原発事故の収束までまだまだ長い道のりが残されています。そして、そんな現実の根本原因をたどれば、政界・官界・財界に蔓延する利権の温床になった中央集権もそうですが、それによって、依存症になっていく私たち市民も大きな要因です。改革の歴史を振り返りますと、カリスマリーダーの出現を待望するのではなく、市民が目覚めなければ、真の改革は起こらないということが明らかです。一例を挙げれば、それはイギリスの清教徒革命であり、名誉革命であり、アメリカ独立革命であり、フランス革命かも知れません。かつてであれば、社会変革のリーダーになるにはそれなりの資格が必要だったと思います。突出した才能や専門能力を持っているとか、特別な権威ある立場にいるのだとか、一部の限られた人たちにリーダーとしての特権が与えられました。しかし、今、名もなき一市民でも、自らの志を鮮明にして、身を投じて邁進することで、誰もがリーダーになれる時代が到来したと思います。なのに、一般的に日本社会では、一個人、一市民の立場で「ものを言う」ことはあまりありません。組織の論理が幅をきかせるサラリーマンの世界では特に顕著です。なぜか主語が自分でなく、企業であったり、国であったりと、評論家になってしまっています。そして個人が表に出ることがあまり歓迎されない空気を感じる時があります。その背景には、個人を強く出すと、自己の利益や野心や欲望のために利用されてしまうのではないか…という人間不信が前提にあるように思います。しかし、何か新しい創造が生まれた時は、その人の志が鮮明に発信され、それが求心力となって人を巻き込んでいくのだと思います。

…この切り口でもう少し、お伝えしたい事がありますが、紙面の都合もありますので、次回、改めて述べます。みなさんで「市川市民としてのあり方」を思い描き、話し合ってみてください。個々人の想いが集まっていけば、良い社会、街が形成されます。

今日も1日、素敵な日を過ごせますように。気をつけて行ってらっしゃいませ！

平成26年4月吉日

増田好秀